

「シャレン!で献血」協力者数が2.5万人を突破!「シャレン!でかるしお」も新たにスタート!
～Jリーグ全クラブ等と協働し、「シャレン!」で社会課題解決～



©J. LEAGUE

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、公益社団法人日本プロサッカーリーグ（以下、Jリーグ）と、「社会的価値の創出」をテーマに、当社の「地元の元気プロジェクト」^(注1)とJリーグの社会連携活動「シャレン!」^(注2)が一体となって、各地域課題に応じた社会貢献活動に取り組んでいます。

その一環として、若い世代の献血が減少傾向である社会課題をふまえ、2023年4月から献血の啓発活動「シャレン!で献血」^(注3)をJリーグ全クラブ等と協働で行ない、今般、献血協力者数が、のべ25,000人を突破^(注4)いたしました。

本取組みは、当社が包括パートナーシップ協定を締結している日本赤十字社の全面的な協力のもとで実施し、Jリーグ選手OBにも献血案内にご協力いただきました。

2025年度は、「シャレン!で献血」を継続実施し、献血協力者の拡大に貢献することに加え、新たに、循環器病の啓発活動を行なう「シャレン!でかるしお」^(注5)を、国立研究開発法人 国立循環器病研究センター（理事長 大津 欣也 以下、国立循環器病研究センター）協力のもと、Jリーグ全クラブ等と実施いたします。

Jリーグとのパートナー11周年を迎えた2025シーズンは、「献血」と「かるしお®」のさらなる普及を通じて、これまで以上に地域の健康増進・活性化への貢献をめざしてまいります。



(注1)「つながり、ふれあい、ささえあう地域社会を。」をコンセプトに、地域の橋渡し役として「社会的なつながり」を提供し、地域のみなさまと各地域の資源・コミュニティをつなげることで、豊かな地域づくりへの貢献をめざす取組み <プロジェクト詳細> <https://www.meijiyasuda.co.jp/brand/jimotonogenki/>

(注2)「シャレン!」の概要: <https://www.jleague.jp/sharen/>

(注3)「シャレン!で献血」の概要: <https://www.meijiyasuda.co.jp/brand/jleague/sharen/>

(注4)2023年4月から2024年12月末までの累計

(注5)「かるしお®」の概要: 国立循環器病研究センター（国循）が推奨する「塩をかるく使って美味しさを引き出す」減塩の新しい考え方 <プロジェクト詳細> <https://www.ncvc.go.jp/karushio/salt-reduction/>

■ 2024年度の「シャレン！で献血」の実績について

当社は、約36,000人のMYリンクコーディネーター等（営業職員）が中心となり、Jクラブや、日本赤十字社等と協力して、地域のみなさまへの献血ルームのご案内活動や、Jリーグのファン・サポーターやスタジアム来場者に向けた、試合当日の献血バスへのご案内活動等を行なっています。

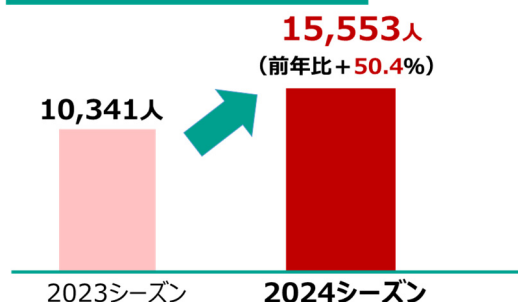
2024年度は、全Jクラブや、一部のJFL等のスタジアムおよび各地域の献血ルームで、15,553人^{（注6）}の方々に「シャレン！で献血」にご協力いただき、累計協力者数はのべ25,000人を超えました。

また、Jリーグ選手OB（のべ117名）が、全会場にて献血案内活動に参加し、献血協力のきっかけづくりに貢献いただきました。

< 2024年度（4～12月）実績 >

※ 協力者数の内訳は次ページ以降（参考）に記載

「シャレン！で献血」協力者数



Jリーグ選手OBとの協働



117名のJリーグ選手OBが
全スタジアムで献血案内活動に参加

■ 2025年度の「シャレン！でかるしお」の取組内容について

全Jクラブ等の試合開催時^{（注7）}に、当社のブース出展スペースにて、循環器病の啓発活動（チラシ・ノベルティの配布）を実施します。

循環器病はがんよりも患者数が多い^{（注8）}一方で、あまり世の中には知られていないという社会課題があります。また生活習慣の改善で予防ができる病気と言われており、その予防策の一つが「減塩」です。

国立循環器病研究センターが推奨する減塩の考え方「かるしお[®]」を通じて、スタジアムに来場するファン・サポーターを中心に、循環器病の知識・予防の大切さを伝えていきます。

（実施イメージ）



（配布物）かるしお関連のノベルティ等



（注6）2024年4～12月末時点

（注7）「2025明治安田Jリーグ」の試合開催時（一部の試合）

（注8）【出典】厚生労働省「令和2年患者調査」に基づき記載

以 上

「シャレン！で献血」協力者数の内訳（２０２４年４－１２月実績）

協力者数（人）		
	うちスタジアム	うち献血ルーム
１５，５５３	３，８４９	１１，７０４

＜スタジアムでの協力者数（Ｊクラブ・ＪＦＬ等別）＞

カテゴリー	クラブ名	協力者数 (人)	カテゴリー	クラブ名	協力者数 (人)
Ｊ１	北海道コンサドーレ札幌	６９	Ｊ３	ヴァンラーレ八戸	４７
	鹿島アントラーズ	４４		いわてグルージャ盛岡	８９
	浦和レッズ	１０３		福島ユナイテッドＦＣ	４１
	柏レイソル	７４		大宮アルディージャ	６９
	ＦＣ東京	９２		Ｙ．Ｓ．Ｃ．Ｃ．横浜	４２
	東京ヴェルディ	５３		ＳＣ相模原	４４
	ＦＣ町田ゼルビア	４４		松本山雅ＦＣ	８０
	川崎フロンターレ	４７		ＡＣ長野パルセイロ	６９
	横浜Ｆ・マリノス	５５		カターレ富山	６３
	湘南ベルマーレ	５２		ツエーゲン金沢	６７
	アルビレックス新潟	１１２		アスルククロ沼津	５０
	ジュビロ磐田	６１		ＦＣ岐阜	６８
	名古屋グランパス	５４		ＦＣ大阪	６０
	京都サンガＦ．Ｃ．	５６		奈良クラブ	２９
	ガンバ大阪	４３		ガイナレ鳥取	３３
	セレッソ大阪	６１		カマタマーレ讃岐	３６
	ヴィッセル神戸	４４		ＦＣ今治	５１
	サンフレッチェ広島	７９		ギラヴァンツ北九州	３８
	アビスパ福岡	７１		テゲバジャーロ宮崎	２２
	サガン鳥栖	５６		ＦＣ琉球	５１
Ｊ２	ベガルタ仙台	５６	ＪＦＬ	ラインメール青森ＦＣ	３４
	ブラウブリッツ秋田	５８		ブリオベッカ浦安	４６
	モンテディオ山形	１２４		レイラック滋賀ＦＣ	６３
	いわきＦＣ	６０		ヴィアティン三重	６５
	水戸ホーリーホック	４４	地域 リーグ	ＶＯＮＤＳ市原ＦＣ	３８
	栃木ＳＣ	６６		鎌ヶ谷ＳＣ・習志野シティＦＣ	４１
	ザスバ群馬	５３		福井ユナイテッドＦＣ	３３
	ジェフユナイテッド千葉	７７		福山シティＦＣ	５１
	横浜ＦＣ	４７		ベルガロッソいわみ	２６
	ヴァンフォーレ甲府	６６			
	清水エスパルス	２７			
	藤枝ＭＹＦＣ	３０			
	ファジアーノ岡山	５１			
	レノファ山口ＦＣ	６７			
	徳島ヴォルティス	４４			
	愛媛ＦＣ	５６			
	Ｖ・ファーレン長崎	４５			
	ロアッソ熊本	６５			
	大分トリニータ	５４			
	鹿児島ユナイテッドＦＣ	４３			

※１ クラブ名称・カテゴリーは２０２４シーズン体制で記載

※２ ＪＦＬ・地域リーグ所属クラブは実施したクラブのみ掲載

＜献血ルームでの協力者数（都道府県別）＞

都道府県	献血協力者数
北海道	1 3 8
青森県	5 3
岩手県	1 5
宮城県	2 1 6
秋田県	4 4
山形県	1 2 5
福島県	3 2 2
茨城県	1 2
栃木県	1 9 6
群馬県	3 7 6
埼玉県	7 1 0
千葉県	5 0 4
東京都	2, 0 7 2
神奈川県	7 8 3
新潟県	3 1 1
富山県	1 1 0
石川県	4 9
福井県	1 1
山梨県	9 2
長野県	1 7 1
岐阜県	2 2 1
静岡県	2 3 1
愛知県	6 4 4
三重県	2 3 5

都道府県	献血協力者数
滋賀県	6 5
京都府	3 3 2
大阪府	8 1 3
兵庫県	9 6
奈良県	1 9 4
和歌山県	6 6
鳥取県	2 9
島根県	6 7
岡山県	2 8 6
広島県	1 4 3
山口県	7 2
徳島県	1 0 4
香川県	4 5
愛媛県	2 8
高知県	4 9
福岡県	7 7 0
佐賀県	1 3 2
長崎県	7 9
熊本県	2 3 3
大分県	2 4 5
宮崎県	6 9
鹿児島県	7 4
沖縄県	7 2